

第2次稲敷市総合計画策定審議会（第1回） 議事録

日時：令和元年10月23日（水）14:00～

会場：稲敷市役所 本庁舎4階 第3会議室

出席者：笥 信太郎（市長）、高山 久（副市長）、
横須賀 徹（委員長）、伊藤 均（副委員長）、
松戸 千秋（委員）、篠田 純一（委員）、若松 宏幸（委員）、根本 浩（委員）、
中沢 仁（委員）、姥貝 守（委員）、鏡淵 洋（委員）、古川 勉（委員）、
根本 作左衛門（委員）、富澤 富生（委員）、村塚 好一（委員）、
諸岡 明美（委員）、高木 正志（委員）、墳崎 崇史（委員）、
沼崎 夕子（委員）、田村 千鶴（委員）、清野 敏秀（委員）、
坂本 文子（委員）

欠席者：黒田 伸治（委員）、本橋正勝（委員）、高須晃次郎（委員）

事務局：政策調整部 根本部長、

政策企画課 糸賀課長、大湖課長補佐、川崎主査、

人口減少対策室 濱田室長、幸田係長、総務課 小田部課長補佐

コンサルタント：大竹、澤田

■資料

- ・第2次稲敷市総合計画審議会 第1回会議次第
- ・総合計画審議会委員名簿（座席表）
- ・資料1 : 稲敷市総合計画審議会条例
- ・資料2 : 諮問書・諮問理由
- ・資料3 : 総合計画と行革大綱、総合戦略の位置づけについて
- ・資料4-1 : 総合計画の効果検証
- ・資料4-2 : 行革大綱の効果検証
- ・資料4-3 : 総合戦略の効果検証
- ・資料5 : 基本計画骨子（案）
- ・資料6 : 策定スケジュール
- ・参考資料1 : いなしきに住みたくなっちゃう🌀プラン基本目標別総合評価

1. 開会

事務局：定刻となりましたので、始めます。本日はお忙しい中、御出席を賜りましてありがとうございます。只今より、稲敷市総合計画審議会第1回審議会を始めます。

本日は最初の審議会でございますので、まだ会長・副会長が選任されておられません。選任されるまでの間、私、政策調整部の根本が進行役を務めさせていただきます。なお、当審議会は公開といたしておりますので、よろしくお願いたします。本日の日程は、長時間となりますが約2時間を予定しております。まず委嘱式をして、その後、審議とさせていた

できます。よろしくお願ひいたします。

なお、配布した資料の御氏名の記載につきましては、敬称を略させて頂きましたので、併せてご了承を頂きたいと思ひます。

2. 稲敷市総合計画審議会委員の委嘱

事務局： それでは、初めに箕市長から委員の皆様へ委嘱状の交付をさせていただきます。

委員の選任につきましては、お手元の資料-1にあります「稲敷市総合計画審議会条例」により、市議会の議員8名以内、学識経験者3名以内、各種団体等8名以内、一般市民6名以内となっており、詳細については別紙審議会委員名簿の通りとなっております。

これより、交付の前に委員の皆様を事務局から紹介させていただきますので、お名前をお呼びした後、その場でご起立下さいませようお願ひいたします。しばらくの間ご起立のままお願ひしたいと思ひます。

《 市長より委嘱状の交付 》

事務局： ありがとうございます。どうぞ皆様ご着席下さい。

今回の総合計画基本計画の策定にあたりましては、行政改革大綱および総合戦略と一体化して策定する方針です。そのため、この度の審議会委員の委嘱にあたって、行革大綱を審議する行政改革推進懇話会委員、総合戦略を審議する有識者会議委員を兼務とさせていただきます。委嘱状については只今の総合計画審議会委員のみ交付させていただきますと思ひます。どうぞご了承ください。

以上をもちまして、委嘱状の交付を終了します。

なお、本日、坂本文子委員につきましては、別の会議に出席しており、遅れて出席されると連絡がありました。また、都合により、黒田伸治委員、本橋正勝委員、高須晃次郎委員につきましては、欠席されておりますが、審議会委員名簿の通り総勢23名の委員構成となっておりますので、よろしくお願ひいたします。また、沼崎夕子委員もご出席いただけるというお返事を頂いておりますが、まだこちらに到着しておりません。よろしくお願ひいたします。

3. 市長あいさつ

事務局： 続きまして、箕市長よりご挨拶を申し上げます。

市長： 皆様、改めましてこんにちは。本日は稲敷市総合計画審議会の開催に際しまして、ご参加をいただき誠にありがとうございます。只今、稲敷市総合計画審議会委員をお願ひしました。大変お忙しい中ではございますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

現在稲敷市では、平成20年に策定した第2次総合計画に基づき、みんなが住みたい素敵なまちを将来像に見据え、様々な施策を総合的に推進しているところでございます。しかし、近年市政を取り巻く状況は、人口減少や少子高齢化の進展、災害の激甚化、医療福祉分野の負担増等、大変厳しいものがございます。

そのような中で、成田空港の機能強化による「成田国際空港周辺の地域づくりに関する基本プラン」の策定、まち・ひと・しごと創生総合戦略と、行政改革大綱の改定時期とが

重なり、この機会に是非これからの計画と総合計画とを一体化して、私の考える稲敷の未来に向けた新たなビジョンと併せて、新たな総合計画基本計画を策定することといたしました。総合計画は今後の市政運営の要となるものでございますので、委員の皆様におかれましては、忌憚の無いご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。それでは本日はよろしくお願いいたします。

4. 稲敷市総合計画審議会会長、副会長の選出

事務局： 次に、会長・副会長の選任でございます。

お手元にお配りしております、資料一の「稲敷市総合計画審議会条例」第4条にありますように「審議会に会長及び副会長各1人を置く」2.「会長及び副会長は、委員の互選によって定める」としておりますので、会長及び副会長の選任をお願いしたいと思います。

選出につきまして、どなたか、ご意見があればお願いしたいと思います、いかがでしょうか。

委員： 事務局案をお願いします。

事務局： 事務局案とのご意見がありましたが、そのようにさせていただいてよろしいでしょうか。

委員： 会長を推薦をしてもよろしいですか。うさぎの代表をされている諸岡委員に是非やってほしいと思っているのですけれど。

委員： 推薦していただき大変ありがたいのですが、私には任が重いと感じます。

委員： 全体的に福祉に対して少し弱かったような感じがしまして、NPO代表で福祉のことをやられている諸岡委員であれば、この先この議事で御力を発揮してくれるのではないかと、いう個人的な意見ですが、そう考えて推薦しました。

事務局： 総合計画というのは、福祉関係も勿論ございますので、福祉についてのご意見も頂いていくということによろしいでしょうか。

委員： はい。

事務局： それでは改めまして、事務局案でよろしいでしょうか。

委員： 異議無し。

事務局： それでは、事務局案について説明させていただきます。事務局より会長及び副会長のご提案申しあげます。

事務局といたしましては、会長に法政大学大学院兼任講師である横須賀徹委員を推薦申し上げます。横須賀委員は、前回策定した、第2次稲敷市総合計画の審議会会長として、また、稲敷市まち・ひと・しごと創生本部の有識者会議の委員長を4年間務め、稲敷市の行政運営にご尽力をいただいておりますことから適任であると考えております。

また、副会長には伊藤均委員を推薦申し上げます。伊藤委員は、稲敷市議会議長であり、当審議会の経験も有していることから適任であると考えております。

事務局： 只今、事務局案について説明をさせて頂いた訳ではありますが、他にご意見がなく、皆様方にご異存がなければ、拍手を以ってご承認して頂きたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員： 《拍手》

事務局： ありがとうございます。それでは、皆様のご承認が得られたということで、会長は横須賀委員、副会長は伊藤委員 をお願いいたします。横須賀会長、伊藤副会長、会長・副会長席のほうへお移り頂きたいと思います。

5. 会長、副会長あいさつ

事務局： ここで、ただ今選出された横須賀会長と伊藤副会長に、一言ずつご挨拶を頂きたいと思います。

会長： 横須賀でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。せっかく諸岡委員で決まる所を、申し訳ありません。一番気になったのは、今日、女性の数が少し足りないなということです。それで諸岡委員の名前が出たので、これは良いなと思っていたのですが、申し訳ありません。高い席からご挨拶させていただきます。

水害の話とか、災害の話が、この令和になっても止まらない。ますます酷くなっています。すべてのことで時間が早送りになっているような今の時代の中で、災害も倍増しているというような気がします。那珂川が氾濫し、利根川の上流でも、何箇所も決壊・溢水がありました。そういう意味では、水に親しむこの稲敷も、色々と備えなくてはならないことが沢山あるのかもしれない。地震の想定で作った避難所が使えないとか、色々なことが起きています。やはり行政そのものが、もう少し、もう一步前進していかないとまずいと感じます。全体がその気にならないといけません。稲敷市そのものもです。茨城県も最下位脱出ができなかったというのは、茨城県全体がそうならなかったということだと思ふのです。

直近の話で言いますと、私も少しラグビーをやっていたものですから、興味がありまして、自分は夢中で毎試合見て、同じ試合をもう一度ビデオで見て、スローで見てというように、非常に楽しんでいたのですけれど、あんなに皆が関心を持って、これだけの盛り上がりになるとは、とても想定していませんでした。選手も、2回目の大会の時には、成田に帰ってきたら記者が2人いたけれど、殆ど相手にされなかったと言っていましたけれど、今はもう全然違う世界に入っている。やはり、強ければということなのかもしれませんが、いろんな意味で、前に向かうサイクルが動き出すと、世の中は変わってくるのだなと実感した事例なのではないかと思ふのです。

そういう意味では、この新しい総合計画で、稲敷の気持ちを改めて整理して、それが行政や市民の間に広がって、新しい稲敷作りに繋がっていけばというつもりでいければと思っております。少し長くなってしまい申し訳ございません。ありがとうございます。

伊藤副会長： 只今、副会長にご指名をいただきまして、皆様にご承認をいただきました伊藤です。横須賀会長を補佐しながら務めていきたいと思ふので、どうぞよろしくお願い致します。

事務局： ありがとうございます。

6. 総合計画策定の諮問

事務局： それでは、稲敷市総合計画審議会条例の第2条に基づき、本審議会に対する諮問を市長からさせていただきます。代表して横須賀会長にお受け取りいただきます。

《 市長より諮問書の受け渡し 》

事務局： 只今、市長から、本審議会に対しまして諮問がなされました。委員の皆様には、ご審議の程よろしくお願ひ申し上げます。ここからの進行は横須賀会長にお願ひしたいと思ひます。

7. 議事

(1) 総合計画と行革大綱、総合戦略の位置づけについて

横須賀会長： それでは、議事に入ります。まず、(1)「総合計画と行革大綱、総合戦略の位置づけについて」ということで、こちらの説明を事務局からお願ひいたします。

《 事務局より説明 》

横須賀会長： ありがとうございます。通常ですと、ここで1つずつ皆様からご意見を伺って、それでどう反映していくかという話になるのですが、最初ですし、皆様から将来の稲敷はどうあって欲しいかという話と、短期的にはどういうことをしなくてはならないかという話を伺って、それを計画作りに生かしていただきたいと思ひますので、とりあえず今日の資料を、2番目、3番目と説明していただいて、それに対する意見と併せて、それぞれの方から一言ずつお話しいただくという形で進めたいと思ひます。よろしいでしょうか。

それでは、事務局のほうで、とりあえず今日の資料を順次説明していただいてよろしいですか。

(2) 効果検証について

《 事務局より説明 》

(3) 基本計画骨子(案)について

《 事務局より説明 》

横須賀会長： ありがとうございます。今日の資料について説明をいただきました。今度は我々の方から順次意見をということなのですが、人数が多いので、2、3分ずつやっても1時間くらいはあっさりとかかってしまいます。ここで5分ほどトイレ休憩を取りたいと思ひます。3時10分まで休憩を取り、その後、私、副会長、というふうはこちらから順に、2分程度でお話しいただければと思ひます。では一旦休憩に入ります。

《 休憩 》

横須賀会長： では時間になりましたので、後半を始めたいと思ひます。ただ、1人1人に時間を短めにお願ひしないとなかなか終わらないかもしれません。そういいながら自分の話が長くならないように私から始めさせていただきます。

私は、総合計画の策定にあたっては、大きな意味で言った時には、やはり質かなと思ひます。今までは量を求めて、人口対策などでも、数の見込みといった、数だけで色々勝負してという感じでした。しかし、それは日本中でやっていることなので、数より

は質だなと思います。質が良ければ結果的に分かってもらえる部分が出てくるのかなと思います。

短期的には、やはり前例に捉われず、やるべきことを思い切ってやっていくというのが、今の時代を乗り越えるのに重要なことではないかと思います。ですから、色々なプロジェクトをお考えのようですから、その中で出てきた施策はどんどん入っていくと。ただ、途中でやめる悪い癖があるのかなと少し思っています。だめなことはすぐにやめても良いのですが、これはもう少し続ければ効果があるなということは、諦めずに。やはり新しいことをやるのには、弊害がでて色々言われます。でもそういうことを乗り越えて、新しいことに突き進んでいただけたらなと思います。では副会長お願いします。

伊藤副会長： 稲敷市総合計画ということで、かなり範囲が大きく、グローバルな話なので、どこからお話ししたらよいか難しいところがあるなと思っております。

とにかく1点ずつ申し上げますと、短期的には環境保全問題が最も重要だと考えています。先程の効果検証の中でも、環境保全分野で、まだ見込みも含めて50%という、低い数字です。土砂の不法投棄も含めて、短期的に、早期に対応しなくてはいけない事かと思えます。

また、将来的には人口減少問題、これが最も大切なものになってくるかと思えます。全国的にも人口減少は進んでいるのですけれど、その減少率をいかに抑えるかというのが大事だと思います。先程のお話にもありましたように、鉄道の無い当市ですので、圏央道、パーキングエリア、サービスエリア、それからインター周辺の開発を、計画的に進めてもらいたい。それが人口減少に対しても効いてくると思えます。やはり働く場所が少ないということが問題だと思います。先程の達成状況のまとめでの目標も、5年間で150人ということで、4万近くいる人口の中でこれはかなり少ないなという気がしました。

もう1つ、4町村合併以来、市街化調整区域の線引きがずっと見直されておらず、4町村で調整区域があるところとないところが混在しているのですね。そうすると、家も建てづらいということがあります。

そのようなことも含めて、将来的には人口減少問題が最も大切かと思えます。先程会長のお話にもありましたが、前例に捉われないということも大事だと思います。以上です。

委員： あまりにも項目が多いので、全体を通じて1つだけ。会長からも先程いただきましたが、どうしても女性の意見の反映が少ない状況だと感じます。課長クラスに女性が1人もいらっしゃらない現状があり、男性に物を申すのは、まだまだ女性には抵抗感があります。たまに私も女性の職員に色々聞いたりしてみるのですが、このような話は上の方に話したりできますかと聞いてみると、できませんと言うのです。特に若ければ若いほど、すごくフレッシュな意見があるのですが、それを上の方に伝えようというところまで至らないというのは、とても勿体無く思えます。そして、女性の声が反映されることで、とてもきめ細やかな、さらなる施策の良さが出てくるのかなということを感じております。行政は、様々な情報を発信いたしますが、どうしても一方通行的なところが否めないところがあります。市民の声をバックするということは、物理的にも厳

しいところがあるのは、重々理解しておりますが、そういったところも含めて、皆様の声をきちんと聞いていけるような内容にしていければ、さらにこの計画も良いものになると思います。先程、会長・副会長かからもお話があったように、数字の羅列だったり、目標値に捉われた結果を出すというようなことではない、質の向上につながるのではないかと考えます。以上です。

委員： 私の意見としましては、他から移住を求めるのも必要ですが、今住んでいる人達が前よりも住みにくくなってしまったと感じてしまっはいけないと思います。というのは、やはり、施策で言えば、以前から私も申し上げていることですが、市民協働に対してかなり遅れが出ています。今、市民協働の浸透というのも、市民の皆様にもなかなか進んでいないと感じています。防災の観点からも、今回の利根川の決壊の事例を見ても、これからは行政にばかり頼るだけの防災では難しい。自助・共助・公助という考えが必要になってきます。自助の次に来るのが共助です。自主防災組織等も必要になってくるでしょう。しかしながら、言葉で言うのは簡単で、やはり区長さん、民生委員さん、消防団員といってもそれをどこがまとめるのかということ、地域のリーダーが必要になってきます。それを誰がどのようにまとめていくのかとなると、そこはなかなか実際にやってみると本当に難しいことだと思います。私も、実際に地区のリーダーとなった時に、議員としてそれをやってしまうと全体が見られないという問題もあります。それを行政がどのようにまとめていくかということが、市民協働でもあるかと思ひます。

あとはもう 1 つ、住んでいる人が住みづらいとおもってはならないということ。P28 の地区拠点施設、公民館の機能を生かした地域づくりとありますけれど、何度も言っておりますが、新利根と桜川は地区センターです。地区センターよりも、私は公民館に地区センターの機能を置いてもらったほうが良いと考えます。そういうことも、もう一度考えていただければと思います。

防災行政無線なども、平成 29 年度に 6,500 万くらいの予算を付けており、債務負担行為でトータルでは 3 億 4,000 万ほど使います。それでも今回の災害では、聞こえづらいということでした。1 台 7 万円もかかる防災無線を 1 軒ずつにかけるわけにもいかず、聞こえない状況になっています。結局最後にはメールに頼るしかない。しかしそのメールでさえ浸透していない。その辺りをしっかりともう一度見直していただきたいと思ひます。そのように総合計画も進めて貰えればと思ひます、以上です。

委員： 総合計画というのは、この文書にもあるように、最も重要な計画であり、稲敷市全体のまちづくりを進めるものであります。とすれば、現在稲敷市はどのレベルにあって、どこを目指すのかというのが、総合計画であると思ひます。今回、総合計画の中で、P8 に環境問題・エネルギー問題への対応として、SDGs、17 のゴールが設定されているのですけれど、この SDGs というのが、2030 年、今から 11 年後をゴールとして、国連全体で全ての課題を解決していこうというゴールを持っています。この SDGs の 17 のゴールに従って、169 のターゲットがございすけれど、ここに網羅している事項が殆どが当てはまると思ひます。このテーマごとに、市長の在任期間である 4 年後にはどうなるのか、また、2030 年にはどう目指していくのかという、そのゴールを決めて行けば、段々分かりやすく見えてくるのではないかとと思ひます。SDGs の問題だけではなく、地方創

生、経済、社会、あらゆる問題を網羅したターゲットになっておりますので、すべての重点施策をSDGsのテーマと照らし合わせるようにして見れば、稲敷市がどこを目指していけば良いのかが見えると思います。こういった整理をしていただければ、分かりやすいものになると思いますので、よろしくお願いいたします。

委員： 分かりやすいものができているなと思います。その中で、基本目標の子育て分野では95%、学びの分野では50%という高い数字なのですが、出生率に至っては1.43から下がっています。この中のピンポイントを実現していけば、出生率が上がっていくのかというのは、全体的に疑問な所が少しあります。

それから、もう1つ、農業分野についてですが、先般の台風15号、台風19号では、大規模農家になれば色々な戦略作物があり、長期間の稲刈りが始まった中で台風が来た場合の対策はとっているというものの、アフターフォローを市ができるようなものがあれば、もっと安心して農業を続けていけるとと思います。農業者が安全を確認しながらできるようなものあれば、という感じを受けました。

委員： 目標の達成状況が、資料4-3という形になっていますが、前々から、議員になるにあたって、シティープロモーションのような形で訴えてまいりました。現在、テレビドラマ等では大杉神社がロケ地であったり、パンプ内のカスミに有名な女優さんが来たりしているのですが、その辺りが皆様に周知されていないのが少し残念だと感じます。茨城県のほうでは、VTuberという形で「茨ひよりちゃん」というキャラクターを用いておりまして、そういったところで一緒に共同作業ができればと思っております。

あとは、今回私も国体の開会式、閉会式に出席しまして、この稲敷市では開催地としてトランポリンが開催されました。江戸崎のスポーツクラブからオリンピックに出場できるようなオリンピックの殆どが出てきているという事実が分かったわけですので、是非とも、そういった特化したスポーツのまちづくり、トランポリンが良いと思いますが、そういったことで進めていただきたいと思います。ちなみに、今回、世界のトランポリン選手権ということで、オーストラリアの選手や、ヨーロッパのデンマークの選手が、事前に稲敷市のほうに入ってくるのも、皆様に周知していただきたいなと思います。是非とも、そういった、トランポリンを中心としたまちづくりをしていただければ、そこから子育てや、移住、定住ということにもなるかと思えます。よろしくお願いいたしますと思います。以上です。

委員： 最近思った事があります。それは、論語の「恕」という言葉がありますけれど、思いやりの心というのが、最近は無くなってしまったのではないかということを感じます。それは、核家族になったせいなのか、もっと広い範囲の中で、子ども達が活動できるとよいのではと思っているのですが、何事も、何かをやることについて、悪いからやってはいけない、と判断される傾向が強い、というようなことを感じます。

それから、稲敷の生まれ育ったところに感動するとか、喜びを感じるとか、そういったものがあってほしいなと思います。稲敷市内の伝統的な文化にしても色々なものが沢山あります。そういうものの発掘を日頃やっていく必要があると思います。いずれにしても、そういう中で子ども達が、安心して居心地よく生活できる地域になっていかないと、そういうことはうまくいかないのではないかと思います。

もう一点は、今回の台風の影響ですね。私は西代というところで、横利根の閘門が非常に近いのですけれど、移動しませんでした。最終的には状況が大体分かったので、移動できなかったのですけれど、情報が非常に少ないと感じました。香取市のエリアメールは頻りに携帯に入ってくるのですが、稲敷では音波の届かない防災無線で、情報がよく届かない。それから、避難場所についても、最初の避難場所となっていて、いっばいで帰されてしまうと、その先がどこへ行けばよいか分からない。明確にできるものがあったほうが良いのではないかと、最近は思っています。

委員： 私は民間の会社に勤めておりまして、実は今週稲敷市に移り住んで来ました。稲敷市のポテンシャルというのがどういうものなのかというのは、すみませんが、私個人的にはまだこれからというところではあるのですが、総合計画の効果の検証、それから行政改革大綱の評価というのを伺って、最初に会長が仰っていたように、やはり量より質を求めていく必要があるかと思えます。そういったしますと、検証の結果と評価を、もう一度見直して、A とされているものはもういいのか、それとも、そぎ落とすべきものなのかというところを、もう一度検証していただいて絞っていく。基本的にはこれまでの第2次総合計画と第3次行政改革大綱、これは引き続き考えていくべきものだと思いますので、質を求めていくというところをまずは第1に考えていくことが大事なのではないかと思えます。それで、何か新しい発想が出てくれば、それに力を注いでいくという形が良いのではないかと思えます。

委員： 先程、副会長からもあったのですが、稲敷市を取り巻く状況の中で、人口減少が非常に大きな課題となっています。私は商工会からきたものですから、事業所の減少の数字を持ってまいりました。総務省の統計局の数字なのですが、平成18年の稲敷市内の事業所は1,988。今出ている新しい経済センサスの数字は、平成26年で1,788となっています。この数年間で200程事業所が減ってございます。市内の雇用対策関連には、事業所の発展、事業的発展というものが、市に大きく貢献すると思えます。しかし、高齢化も進む中で、高齢による廃止が市内では多いと言われております。商工会では、事業所の発展、事業のスムーズな承継、今は市からの施策に出していただいている創業支援に力を入れております。審議会の中で、産業、特に商工業の分野でお話をさせていただければと思えます。よろしく願いいたします。

委員： 私からは農業関係について少しお話をさせていただきたいと思えます。重点プロジェクトという形で、総花的ではなく、絞った中での政策が当然大切だろうと思えますが、その中の、地域経済活性化プロジェクトの中で、特に持続可能な農業、次世代型の農業の推進という部分については、まだまだ手つかずのところがあるのかなということで、今後検討をいただきたいなと思えているところです。

当地域は、カボチャの一大産地であり、銘柄産地、GI登録のカボチャ産地ということで、大変高い評価を受けておりますが、高齢化の中、また後継者不足の中で、現状では縮小しているというのが現実です。こういった中で、一線を退いた方が、改めて施設を建設しながら取り組もうとすると、大変大きな投資を必要とするので辞められるという方が多いのです。こういった1つのプロジェクトの中で、新規の方々への指導を行いながら、産地の育成を目指す、投資をせずともできる手立て、こういったものに取り組ん

でいただければありがたいと思っております。

今、政府の中では、大規模農家の育成という課題が出てきていますが、私は大規模農家だけが生き残る戦術ではないと思っております。ややもすると AI を活用しながらやろうということで、過大な機械を導入し過大な投資に陥る、総合農業になりがちであります。現実には、私の近くでも大変広い面積をやったださる地域は、水は出しっぱなし、畦畔は荒れっぱなしというのが現実です。大規模農家がもてはやされる一方で、若干掛け違いがあるのかなと考えております。やはり、当地区といたしましては、家族農業、所謂、麦、大豆、水田野菜、こういったものを取り込んだ、地域を生かす農業というようなものを、もう少し幅広く農家の方々に訴えて、この地域を農業の一大産地として守っていくという意識の醸成が必要だろうと思っております。そういう意味では、行政自らが、10~15ha の家族農業でできる面積に重点を置いた育成の仕方を是非検討いただければありがたいと考えております。

そういった中で、以前にも私は市の方に申し上げた計画なのですが、シルバー人材の活用というのは非常に重要だと思っております。他の園芸産地は外国人労働者の活用を積極的に行って、農業の経営を持続させている中、当地区は水稻に偏った中では、年間を通じた雇用ができないことがあります。やはり季節的、短期的雇用を可能とする政策ということで、今、アルバイト情報など、スマートフォンを見れば即座に分かるという時代です。このような、人材を欲しがっている方に、市が間に入り、アルバイト情報などで人と人を結びつけるシステムを立ち上げるなどのような AI の使い方といったことを、是非この次世代型農業の中にも組み入れていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。以上です。

委員： 区長という立場で言わせていただきますと、防災関係についてですが、現実的には、区長というものを、実はあまりあてにしていないのです。最終的には区長の役割が必要になってくるのですが、行政でどのように準備をして、活用していくのか、今回の台風では、市民協働、それから地域間、それぞれが一体化されていないものですから、避難場所やその運用についても、非常に戸惑う。今回はそういうことがあったものですから、町会の活用について考えていただきたい。

今、市民協働ということですが、どうも市民協働というのは色々問題があって、色々後付けのものが多いのです。順番を考えていただきたいと思ひます。

それから、桜川地区運動公園が運動の拠点ということでやっているのですけれど、統合小学校ができるというので、やはり学校予定地となってしまいました。後付けになるようですが、代替地などの計画についても、総合計画の中に入れていただければと思ひます。

委員： 今回台風 15 号、19 号という災害の中で、稲敷市は、農業において色々被害も受けましたが、我々防災を預かる者としては、人的被害もなく、ある意味平穩に終わったのかなという感じではおります。とりあえず、避難所開設、避難民の誘導に今回はなったわけですが、それ以上に限られた人材の中で住民のために動くということを見ると、やはり、先程篠崎委員からもありましたように、自主防災組織を今後考えていかななくてはならないのかなと思っております。やはり、自主防災組織というのは、ああいった緊

迫感の中で、どれだけの人がどのように動いていただけるのかという不安もあります。広報などを通じて、市のほうの協力を仰ぎながら住民に周知していくなど、ある程度時間はかかるものとは思いますが、やはりこれには取り組んでいかなければならないと感じます。今後も、15号、19号のような台風が、常に来るものという想定のもとで対応していかなくてはならないという感じがしております。そういった防災のほうで、もう少し色々アピールできればと考えております。

委員： 基本計画の骨子案について説明していただいて、行革大綱の関連で、ボランティアの立場から言うと、各課が連携を図り、効率的な計画を立てていくのが非常に重要だと感じました。例えば p28 のまちづくりプロジェクトでは、安心安全な地域づくりプロジェクトの中に社会福祉の分野が含まれます。この計画を作っていく時に、こういったことを踏まえて検討していただきたいと思いながら見ていました。それと、今私は年齢的に、断捨離に凝っているのですが、この稲敷市の将来を考えると、財政面が非常に厳しいと想像できます。今現在でもそうかもしれませんが。それを考える時に、色々な事業を、今までやっていたからそのまま継続していかなくてはいけないとか、流れでやってきたものだからどうしてもやめられないとか、色々事情はあるのでしょうけれど、輝く未来を考えるとといった時に、少子高齢化をありのまま受け止めて、その中でやめるとか捨てることも必要だと思います。色々な決断をする時も、全てやらなくてはならないという、はっきり言って無理だと思うのです。それを考えながら会議に参加していきたいと思いました。

委員： 稲敷もそうなのですが、食生活改善推進協議会の会員も、高齢化しています。シニアが殆どで、若手が1人しかおらず、役員がきつくなってきています。今取り組んでいるのは、高齢者の居場所作り、シニアカフェというのに取り組んでいます。県から降りてくる事業も色々あり、それをこなすのが本来の役目で、あとは子ども達の子ども食堂をやっているのですけれど、4町村の合併で東地区と桜川そのような活動をしていません。新利根と江戸崎地区では、生活保護世帯が結構多いという話は耳にしており、食事ができない子どもの為に子ども食堂をやっているという会員もおります。

今、世の中の方は、子育てだというのですけれど、シニアのほうも考えていただきたいと思います。皆、私達も若かったのですけれど、年々年を重ねてシニア世代になってしまいました。交通の便も悪く、車が無ければ生活できず、年をとって目も段々悪くなり、車を手放すようになると、どうやって生活していくのかという不安のほうが大きいのです。循環バスもあるのですが、そのバス停に行くまでが遠い。自宅まで小型バスが迎えに来てくれるというシステムをよくテレビで見ますが、そのような取組でないと、病院へ行ったりすることができません。働く世代の人たちを休ませてまで行くということになるのも大変です。そういった課題がいっぱいだと思いますので、ますます頑張ってくださいませんか。

あと一言、全然関係のない話なのですが、和田公園に毎年チューリップを沢山植えていて、相当お金がかかっていると思うのですけれど、センスが無い。あれは本当にお役所仕事だと思います。私は花好きで、砺波市まで自分で行きました。ひたち海浜公園のチューリップは素晴らしいです。あとは新潟公園のチューリップも見に行きます。その

ような他所を見学しているのでしょうか。ただ行政がお任せでやっているのでは、人に紹介できないです。ただ並べて植えれば良いというものではないのです。やはり感動を呼ぶものが無い。心が無い。ハートが感じられない。ひたち海浜公園などは皆感動します。素晴らしい。あの植え方は、発想の転換があります。もう少し発想を転換してやっていただければと思います。

委員： 他の委員の方も仰っていたことと繋がる部分ではあるのですが、地域課題に対して、住民自身が当事者意識を持ったり、その上で行政としては地域住民の知恵や力を借りて、地域住民と一緒に問題を解決していくような時代になっているのかなと思っています。先程、公助と共助と自助というお話もありましたが、公助に頼っているだけではもう財政的に限界がありまして、行政としては選択と集中で、効果が高いものに対しては積極的に投資しつつも、効果が低いものに対しては、そこは諦めていくしかないという潔さも大事だと思います。稲敷ですと、観光に力を入れてしまうと、佐原や潮来や鹿嶋には負けますから、そこに重点的に投資したってしょうがないと思いますし、地域住民の力を借りて、教育や福祉の課題を解決していく必要があるのだと思います。

先程、事務局の方から説明があつて、かなり稲敷市というのは深刻な状況だということを改めて認識しました。今、鹿行地区の子育て支援政策に関わっておりますので、鹿行地区の進捗に関しては、市役所の職員から聞くことができますが、先程の数字を見ると、稲敷市より人口が1万人以上少ない潮来市よりも、出生数が少ないのですね。将来的には人口減少というのは加速していますが、どんどん稲敷は人口が少なくなっていくのだと感じました。今までも審議会で申し上げていたのですが、地域住民が集まる場所として身近な場所というのは、やはり学校だと考えています。文部科学省のほうでは、学校教育基本法を2006年に改正して、地域と学校と行政が連携して、学校は教育の問題だけでなく、地域問題を解決する場所という位置付けになっています。地域住民が集まりやすい、開かれた学校づくりというのも、考えていただけたらと思います。地域住民の力を借りて、地域問題を解決していくような、そういった総合計画になると良いと思います。

委員： 専門家でも何でもないので、私自身の実生活で経験したことをお話することしかできないのですが、自営業をしております、商工会にいつもお世話になっています。仕事を自分で作り出すしかないという状況にあるのですが、本音を言ってしまうと、稲敷に仕事はありません。あつても少なくて稼ぐことができません。ですから、正直に言いますと、このような立派な席に座らせていただいておりますが、チャンスがあれば外に出ていきたいと思っています。

娘が生まれましたので、子育てというのも色々と考えなければなりません。子育てというのは、親の考え方がとても影響してくると思っているので、私自身は、稲敷で子育てをしたくないなと考えています。というのは、経済が回っていないところで子育てをしても、子どもに経済観念が生まれませんからです。確かに、稲敷で子育てをすれば、優しく良い子に育つとは思っています。しかし、優しくのんびりした子に育ててもらいたいなら、ここで育つても全然良いと思うのですが、私はどちらかというと、経済観念がしっかりしていて、自分で稼いでいけるような子になってほしいので、都会に連れ

ていきたいと思っています。もし仮に、ここにそれにも増して魅力的な子育てをできる環境があるのであれば、私達市民レベルにその情報は届いていないので、それを発信できるような環境を整えていただきたいと思います。

高齢者関係に関しては、私の両親は結構この地域に満足しているようで、死ぬまでここで暮らすのだらうなという感じはしています。高齢者の方々にとってはそれなりに満足している状況があるのかなと思います。

最後に1つ、若い女性をはじめ、若い方々が働き、出会い、結婚して、出産し、育児をするライフステージを稲敷でということですが、私はこれをイメージできなくて、これは、都会であれば、とてもキラキラした男女が会って、ドラマにでもなりそうな感じで良いと感じるのですが、稲敷でこれというのは、まず働く場所が無いですし、出会うといっても車ですれ違っているから出会うこともできないでしょう。パンフでピーマンを取り合って偶然の出会いが生まれる、みたいなことですが、それって何億分の1の確率だと思いますか。その辺りも、出来ないことは切り捨てて、余ったリソースを高齢者分野に充てるとか、そういう感じでやっていくと良いと思います。

委員： 私は病院で働いているのですが、高齢者の方で、お一人で来ている方に、どうやって来られたのかとお聞きすると、龍ヶ崎などと比べると、バスではなくタクシーと答える方が多いです。では次はいつに来てくださいと言うと、タクシーで来るしかないのもう少し伸ばせないですか、という声を伺うことが多いのです。それは勿論、ご本人たちもお困りだと思います。私も年齢的に40手前になってきて、周りが結婚して子どもが生まれて、家を建てるようになった時に、今、子育てのことも勿論、どのようにしていくのかということも見ると思うのですが、ここで家を建てたら、あと30年、40年経った時に、自分はどうなるのかな、と想像しながら住むところを探すと思うのです。そういう高齢者に対するケアも大事なのかなと思っています。病院もありますし、イベントもたくさんしているけれど、ではそれに行くための線が無いというか、良いものが沢山あっても繋がっていないということがあるのかなと感じています。

これは少し話がずれてしまうのですが、私は先日の台風の時に避難させてもらったのですが、その時消防団の方が、嵐の中、自分の職業でもないのに出ていかれるという姿を見て、感動した部分があります。そういう、知らないけれど素敵なおところが見つかっていけば良いと思います。以上です。

委員： 私は普段、父の会社を継いで代表のような形でやらせていただいております。主人は別の会社に勤めており、1人で従業員と共に回しているような形です。それとは別に、市内で、青少年育成ということで、イベントを立ち上げたりして活動しております。自分の子どもは3人おまして、高校生と、中学生と小学生になります。自分の子どもが高校生になる時なのですが、子育てをしていて、交通の便が悪く非常にネックとなっていました。自分自身も忙しいし、なかなかその辺りにばかり時間を割けないということもありますので、そういうところを見直していただきたいと思います。

あとは、人口減少の数を見ていた時に気になったのですが、外国人の方々が最近増えていると思います。例えば、市民協働とか、地域づくりという中に、外国から来た方々というのは入っているのでしょうか。この間の災害の時など、そういう時に、地域の連

携というのがどんな形になっているのかと考えた時に、外国人の方々はどういう扱いになっているのかと考えたところです。

あとは、私が住んでいるところも、被害はありませんでしたが、避難した方が良いということで連絡があったのですけれど、その時に、学校を中心とした繋がりというのが最も強いと思ったので、子ども会など、そういうものの活用ができないかと思いました。子ども会と、地区の区長さんと、PTA や消防団など、そういう横の繋がりです。学校評議員さんなどもいらっしゃるので、その辺りの繋がりが強くなって、そういう時に連絡網ではないのですけれど、そういった役割を担ってくれるようなものが作れると良いのではないかと思います。避難指示が出たときに、どのように連絡などを回したほうが良いのか分からない、と子ども会の会長さんに相談したところ、自分がどこの所属になっているのか分からないということでした。子ども会の会長さんは自分が一番上というのが分からないし、誰に相談して良いかも分からないと仰っていました。今まで、降りてきたものを回しているだけで、自分がどういう役割をしなければならないのかを分かっているやっているとことが大きいのではないかと感じました。その辺りの明確化というのも取り組んでいけたら良いのではないかと思います。以上です。

横須賀会長： 皆様から色々伺いました。とても危機感を感じていらっしゃるかたも非常に多いということで、これをどう打開するかという、根っこがこの計画の中に入ってくるのではないかと思います。今の皆様の意見を上手く生かして、どう取り組むかを真摯にご検討いただくということで、行政のほうにはよろしくお願ひしたいと思ひます。

議事としては、残るはスケジュールだけなのですが、まだ一言言い足りないという方はいらっしゃいますか。まあ、沢山いると思うのですけれど、時間は丁度良い頃合いに来ているので、もしよろしければ、ここで一度お話は切らせていただいて、それぞれご意見のある方は、担当のほうに口頭、もしくは文書で、色々考えをお伝えいただければ良いかと思ひます。

(4) 策定スケジュールについて

会長： それでは、最後に策定スケジュールについて、事務局よろしくお願ひします。

《 事務局より説明 》

(5) その他

会長： それではその他はございますか。

《 事務局より説明 》

会長： それでは、今日の委員の発言を、議事録として、委員の個人名を外してですが、内容をなるべく事務局の中で共有していただいて、市民がこのような危機感を持っているよということをご理解いただいた上で作業を進めていただければと思ひております。

以上で議事を終わらせていただきたいと思います。皆様ご協力ありがとうございました。

8. 閉会

事務局：長時間に渡りご審議をいただき、ありがとうございました。これを持ちまして、第1回稲敷市総合計画審議会を閉会いたします。本日は、ご協力ありがとうございました。お疲れさまでした。

以上